

シグマ研究委員会  
62年度第2回運営委員会議事録（案）

日時 昭和62年6月12日（金）13:30-17:30  
場所 水戸プラザホテル  
日本原子力研究所東海研究所研2棟221号室  
出席者 鹿園（委員長：原研）  
梶山（東北大）、中沢（東大）、中嶋（法大）、  
五十嵐、長谷川、水本、（原研）  
幹事：浅見、中川（原研）  
オブザーバー：菊池（原研）、瑞慶覧（日立）

配付資料

- 1、62年度第1回運営委員会議事録（案）
- 2、1988 International Reactor Physics Conference
- 3、Advisory Group Meeting on Nuclear Data for the Calculation of Thermal Reactor Reactivity Coefficients に関するテレックス
- 4、A.B.Smith 氏からJ.Behrens氏への手紙の写し
- 5、International Conference on Neutron Scattering
- 6、IAEA Advisory Group Meeting on Nuclear Theory for Fast Neutron Nuclear Data Evaluation
- 7、シグマ研究委員会の構成
- 8、Status of U-238 Task Force
- 9、JEF-2 Evaluataions (List of Responsible Persons)
- 10、Structure and Redeployment of Data Bank Staff 1987-89
- 11、Decisions of the Steering Committee for Nuclear Energy
- 12、シグマ特別専門/研究委員会議題
- 13、日本原子力学会、核データ・炉物理合同特別会合（案）
- 14、核データ研究会資料
- 15、First Circular on 1987 Seminar on Nuclear Data
- 16、Conference Topics and Invited Talks
- 17、第3期第2回諮問・調整委員会議事メモ
- 18、原子力データベース・センターの設置

運営委員会に先だって、核データ国際会議開催予定の会場の見学を行った。水戸プラザホテルのロビーに集合し、約30分にわたって会場の各室を視察するとともに係員の説明を受けた。

## 議事

### 1、前回議事録

資料1により確認を行った。

### 2、事務局報告

- (1) 1988 International Reactor Physics Conference (資料2) の紹介。
- (2) Advisory Group Meeting on Nuclear Data for the Calculation of Thermal Reactor Reactivity Coefficients (資料3) の紹介。
- (3) A.B.Smith 氏からJ.Behrens氏への手紙(資料4) の紹介。
- (4) International Conference on Neutron Scattering (資料5) の紹介。
- (5) 五十嵐氏から、IAEA Advisory Group Meeting on Nuclear Theory for Fast Neutron Nuclear Data Evaluation (資料6) のfission spectrumのレビュアーに大沢氏(九大)を推薦したこと、この会議への出席希望のあった神田氏(九大)と大沢氏との出席を科技厅へ連絡したこととの報告があった。
- (6) 浅見氏から、核データ専門部会内のWGの再編成について資料7を用いて報告があった。また、62年度の委員会の旅費の使用案について説明があったが、全額を配分するのではなく保留分を考えるべきとの意見が多かった。

### 3、諮問・調整委員会報告

梶山氏から資料17により6月8日の会合の報告があった。今回と前回とをまとめて本委員会に中間報告をするとの説明があった。また、河原崎氏と木村氏との後任の選出の要請があった。

### 4、崩壊熱基準研究専門委員会報告

中嶋氏から5月8日の第1回会合について報告があった。この会合では主旨・活動計画、ANS5.1及びシグマ委のWG活動状況の説明を行い、活動方針の議論を行った。次回は7月の予定である。

### 5、JENDL-3編集グループ報告

浅見氏から、JENDL-3データの評価及びファイル化の現状について報告があった。その中で、ベンチマーク・テストに使用するデータのファイルをJENDL-3Tと呼ぶことにしたこと、編集グループと評価者間の情報連絡のためにJENDL速報を発行している等の説明があった。

## 6、NEANDC第26回会合報告

五十嵐氏から、出席したNEANDC第26回会合の概要について報告があった。とくに資料8により、U-238 Task Forceの現状の説明ならびに、この<sup>Task Force</sup>はFe-56のTask Forceとともに終結することになっている等の説明があった。

## 7、JEF科学調整グループ会合報告

五十嵐氏から、出席したJEF科学調整グループ会合について報告があった。JEF関係では、JEF-1のベンチマークテスト<sup>多分</sup>が~~終わり~~ JEF-2の評価が進行中である。JEF-2は1988年に完成の予定であるが、予定通りには進んでいない模様である等の説明とともに、JEF-2の評価者(資料9)の説明があった。

## 8、NEAデータバンクの将来構想

五十嵐氏からNEAデータバンクの将来構想について、資料10、11により次のような説明があった。NEAデータバンクの仕事は、これまで核データと原子力コードのサービスが中心であったが、今後は原子力の安全性や廃棄物のデータサービスに重点を移す案が出されている。

Steering Committee及びData Bank Committeeでは急激な変更は困るとの意見が多く、小グループを作って再検討することになっている。

## 9、学会特別会合

中川氏から資料13により、原子力学会の秋の分科会における核データ・炉物理合同特別会合のテーマおよび講師の案について説明があり了承された。特に「原子力データベースに関する最近の状況」のテーマに関連して、菊池氏から資料18により原子力データベースの原研の現状について説明があった。また、座長候補者について検討を行った。

## 10、本委員会の準備

昨年度の議題(資料12)をもとに議論を行って、主要議題、時間の配分等を決めた。また、特別講演は

- (1) Covarianceに関する国際会議と核融合核データの国際会議からの話題：神田氏(九大)
  - (2) チェンマイ大学での核データの話題：高橋氏(阪大)
  - (3) 核融合ニュートロニクスに関する日米協力：中村氏(原研)
- とすることで、それぞれの講師に依頼することにした。

## 11、核データ研究会準備状況

瑞慶覧氏から、5月9日のプログラム・実行委員会での検討事項について報告があった。開催期日は11月11～13日、開催場所には原子力普

及センターを考えている。研究発表論文を公募することで資料14の文書  
を関係者へ発送した等の説明があった。また、五十嵐氏から、外国へ案内  
状(資料15)を送付したとの説明があった。

## 12、核データ国際会議への取り組みについて

五十嵐氏から、第2次案内を国内外に731部送付したことならびに招  
待講演候補者からの回答について報告があった。招待講演候補者の内、4  
名の辞退があったので資料16のように一部の調整を行い、これを国内の  
プログラム委員に送付した。12月中旬に国際プログラム委員会を行う予  
定である等の説明があった。討論の中で次のようなコメントがあった。

- 今後、候補者が出席できなくなった時には、contributorから補充する  
ことになるだろう。
- シグマ委からcontributorを多く出して欲しいので各専門部会で検討し  
てもらいたい。

また、Industrial Applicationsに関して境界上の問題をどこまで取り込む  
かについて議論があった。

次回は9月11日(金)に東京で行うことにした。